

南博名誉教授著作目録(抄)

昭和十五年(一九四〇年)

六月 「視空間の成立に関する実験的研究」(心理学研究、第一五卷、第三輯)

昭和二十年(一九四六年)

四月 Minami, H. and Dallenbach, K. M., The Effect of Activity upon Learning and Retention in the Cockroach. *American Journal of Psychology*, 1946, 59.

昭和二十二年(一九四七年)

六月 「精神分析学と文化人類学——アメリカ社会心理学の新傾向——」(思想、一九四七年第六号)
一一・一二月 「アメリカの理論心理学」(理想、一九四七年第一七六号)

昭和二十三年(一九四八年)

七月 「映画の分析——社会心理学的方法——」(思想の科学、第三卷第七号)

昭和二十四年(一九四九年)

一月 「戦後日本に於ける売笑婦の特質」(婦人の世紀、第八号)

六月 『心理学展望』(金子書房)

六月 『アメリカの思想と生活』(真善美社)

一二月 『社会心理学——社会行動の基礎理論——』(光文社)

昭和二十五年(一九五〇年)

二月 「日本の流行歌」(思想の科学、第五卷第二号)

五月 「社会心理学の立場から——『菊と刀』について」(民族学研究、第一四卷第四号)

八月 「大衆コミュニケーションの魔術性」(思想、一九五〇年第八号)

一月 「社会心理学の諸問題」(社会学評論、一九五〇年第一一号)

昭和二十六年(一九五一年)

四月 The Post-war Social Psychology of the Japanese People. *The Annals of the Hitotsubashi Academy*, Vol. I No. 2.

八月 「アメリカの大衆娯楽——調査研究の展望——」(思想、一九五一年第八号)

一〇月 「アメリカ人の見た日本人」(『国民講座I』、日

(157) 南 博名著教授著作目録 (抄)

昭和二十七年(一九五二年)
本の思想』河出書房)

四月 「日本における人間関係」(労務研究、第五巻第四号)

六月 「歴史意識」(『日本歴史講座』第八巻、歴史教育篇)

六月 『人間の方向』(東和社)

七月 『生きる不安の分析——自殺への誘惑は避けられないものだろうか——』(光文社)

一〇月 訳『デマの心理学』(G・W・オルポート、L・ポストマン原著、岩波書店)

昭和二十八年(一九五三年)
編『人間の心理』(毎日新聞社)

六月 「マス・コミュニケーション」(思想、一九五三年第六号)

昭和二十九年(一九五四年)
『日本人の心理』(岩波書店)

一月 「社会心理学の動向——最近の文献を中心に——」(心理学講座、第一〇巻第一号)

二月 「アメリカ社会心理学の動き」(思想、一九五四年第二号)

四月 『現代のマス・コミュニケーション』(要書房)
Human Relations in the Japanese Society,
The Annals of the Hitotsubashi Academy,

Vol. IV No. 2.

五月 「一心太助——講談的精神の人間像——」(思想の科学、第九巻第五号)

五月 編『マス・コミュニケーション講座(4)——映画・ラジオ・テレビ——』(河出書房)

昭和三十一年(一九五五年)
編『マス・コミュニケーション講座(5)』(河出書房)

四月 「マス・コミュニケーションの論理と表現——旭ヶ丘中学問題の新聞報道をめぐって——」(思想、一九五五年第四号)

八月 「事実だけが人間を裁く——強制「自白」の心理——」(松川事件資料集第六号)

八月 『日本人の娯楽』(河出書房)

二月 「芸術の心理」(『現代芸術講座Ⅲ・社会と芸術』河出書房)

昭和三十一年(一九五六年)
『社会心理学者の見た「浅草」』(英宝社)

四月 『現代人の心理』(河出書房)

七月 訳『映画と大衆』(R・マンヴェル原著、紀伊國屋書店)

昭和三十三年(一九五七年)
編『現代心理学用語辞典』(河出書房)

四月 On some Characteristics of Mass Entertain-

ment in Contemporary Japan, *The Annals of the Hitotsubashi Academy*, Vol. VII No. 2.

四月 「心理学の領域について」(一橋論叢、第三七卷 第四号)

十一月 『体系社会心理学』(光文社)

昭和三年(一九五八年)

三月 『社会心理学入門』(岩波書店)

三月 「芸道意識」(『講座・現代芸術II』勁草書房)

六月 編『日本の芸術——伝統と近代——』(東洋経済新報社)

八月 「コミュニケーションと社会」(『コトバの科学 第二巻、コトバと社会』中山書店)

九月 訳『コミュニケーションの歴史』(L・ホグベ

ン原著、寿岳文章、林達夫、平田寛と共訳。岩波書店)

一〇月 訳『エロスの文明』(H・マルクーゼ原著、紀伊國屋書店)

一〇月 On the System of Social Behavior, *The Annals of the Hitotsubashi Academy*, Vol. IX No. 1.

十一月 「テレビジョンと受け手の生活——受けとり反応と社会効果の問題点——」(思想、一九五八年 第一一号)

昭和三四年(一九五九年)

二月 「大衆現象の心理——3 群衆行動と大衆運動——」(『現代社会心理学』中山書店)

五月 編『応用社会心理学講座』全四卷(光文社、↓一〇月)

八月 訳『社会運動の心理学』(H・キャントリル原著、石川弘義、滝沢正樹と共訳。岩波書店)

八月 「昭和時代の風俗」(『日本風俗史、第一巻』雄山閣)

九月 「現代の風俗」(『日本風俗史、第一二巻』雄山閣)

一〇月 「母性からの逃走」(『近代文学鑑賞講座第九巻、谷崎潤一郎』角川書店)

十一月 「精神分析理論における文化価値の問題——フロイトを中心に——」(思想、一九五九年第一号)

十二月 「デマと宣伝の心理」(『NHK国語講座、ことばの心理』宝文館)

昭和五年(一九六〇年)

一月 『マス・コミュニケーション入門——現代を支配するもの——』(光文社)

三月 「パーソンズ社会学の心理学的基礎(I)」「一橋論叢、第四三卷第三号)

五月 「娯楽の肯定と娯楽の否定——江戸時代における娯楽思想によせて——」(思想、一九六〇年

(159) 南 博名誉教授著作目録 (抄)

- 第五号)
- 七月 「行動の基礎理論上」(思想、一九六〇年第七号)
- 八月 「パーソンズ社会学の心理学的基礎(Ⅱ)」(一橋論叢、第四卷第二号)
- 一〇月 「社会学の基礎理論をめぐって」(一橋論叢、第四卷第四号)
- 一〇月 編『講座・現代マス・コミュニケーション』全三卷(河出書房、↓一九六一年五月)
- 昭和三六年(一九六一年)
- 三月 「行動科学の立場から」(日本学術会議編『人文科学振興のために』)
- 六月 「パーソナル芸術・マス化芸術・マス芸術」(『講座・現代芸術Ⅳ』勁草書房)
- 六月 「大衆芸能のマス化——マス・コミ成り立ちの前後——」(同右)
- 七月 「行動の基礎理論中」(思想、一九六一年第七号)
- 昭和三七年(一九六二年)
- 四月 「流言飛語にあらわれた民衆の抵抗意識」(文学、一九六二年第四号)
- 八月 「行動の基礎理論(下の一)」(思想、一九六二年第八号)
- 一一月 「行動の基礎理論(下の二)」(思想、一九六二年第一号)
- 昭和三八年(一九六三年)
- 一月 「日本の文化論——ひとつの系譜——」(思想、一九六三年第一号)
- 二月 監修『マス・カルチャー』(紀伊國屋書店)
- 三月 『社会心理学の性格と課題』(勁草書房)
- 五月 「行動学におけるモデル」(思想、一九六三年第五号)
- 一〇月 「明治初期の風俗政策と社会心理」(一橋論叢、第五〇卷第四号)
- 昭和三九年(一九六四年)
- 一月 「日本人の外国人観」(人間の科学、第二卷第一号)
- 四月 「心理学における東と西」(思想、一九六四年第四号)
- 四月 『現代を生きる心理学』(講談社)
- 四月 編『現代人の心理学・心理学新事典』(河出書房新社)
- 八月 「行動学と行動科学」(思想、一九六四年第八号)
- 一〇月 監訳『消費者行動』(G・カトリーナ原著、ダイヤモンド社)
- 昭和四〇年(一九六五年)
- 七月 監修『社会心理史——昭和時代をめぐって——』(誠信書房)
- 八月 編『大正文化』(勁草書房)
- 昭和四一年(一九六六年)

- 昭和四二年(一九六七年)
- 四月 「政治家における詭弁の研究」(潮、一九六七年一月号)
- 四月 「プラグマティズム」(『社会思想史十講』社会思想社)
- 九月 訳『人生ゲーム入門』(E・バーン原著、河出書房新社)
- 昭和四三年(一九六八年)
- 一月 訳『戦争と平和の心理学』(C・E・オスグッド原著、田中靖政と共訳。岩波書店)
- 四月 訳『メディアはマッサージである』(M・マクルーハン原著、河出書房)
- 昭和四四年(一九六九年)
- 七月 「心中の社会的考察——江戸時代の愛情論——」(『伝統と現代』一九六八年七月号)
- 十二月 編「伝統とは何か」(『伝統芸術の会編』『伝統と現代』(全一二巻)第一巻)
- 昭和四五年(一九七〇年)
- 三月 「日本における近代化と社会心理——大正時代を中心に——」(『文科系学会連合編集研究論文集』第一九巻、日本における近代化の諸問題3)
- 七月 「流行歌からみた日本人の心理」(『現代のエッセプリ』第三八号、日本人、その構造分析)
- 昭和四六年(一九七一年)
- 六月 Psychology of the Japanese People, 1971, University of Tokyo Press; 1972, University of Toronto Press. (『日本人の心理』英訳)
- 六月 「行動の概念について」(高木貞二編『現代心理学の課題』東大出版会)
- 七月 監訳『現代心理学』全九巻(J・ピアジエ、P・フレズ編、波多野完治と監訳。白水社)
- 十一月 監修『マス・コミュニケーション事典』(学芸書林)
- 昭和四七年(一九七二年)
- 一月 監訳『学際研究・社会科学のフロンティア』(M・シェリフ、C・W・シェリフ原著、鹿島
- 四月 監訳『行動科学事典』(B・パレルソン、G・A・スタイナー原著、誠信書房)
- 五月 「日本人の行動傾向」(1) (3) (テアトロ、一九六六年五月、七、八月号)
- 五月 監訳『大衆消費社会』(G・カトーナ原著、ダイヤモンド社)
- 九月 『機械文明と人間』(日本放送出版協会)
- 一〇月 The Present Status of Industrial Psychology in Japan, Bulletin de l'association internationale de psychologie appliquée, Vol. 15 No. 2
- 一一月 「行動科学の性格と課題」(思想、一九六六年第一号)

(161) 南 博名著教授著作目録 (抄)

出版会)

- 六月 編『現代人の病理』全五巻(相場均他と共編、誠信書房、↓一九七五年四月)
八月 「日本人論から見た日本人」(文藝春秋、一九七二年八月号)
一〇月 「テレビ研究への提言」(新聞学評論、第二号)

昭和四八年(一九七三年)

- 五月 The Introspection Boom: Whither the National Character, *The Japan Interpreter—a Quarterly Journal of Social and Political Ideas*, Vol. 2 No. 8, Spring, 1973.
五月 編『戦後史資料—文化—』(日本評論社)
六月 「消え」の美学、冷え」の文化」(放送文化、第二八巻第六号)

昭和四九年(一九七四年)

- 三月 『社会不安—その日本的構造—』(PHP研究所)
五月 「流行語をめぐって」(ユリイカ、第七巻第四号)
五月 「落語の社会性」(新劇、第二一巻第五号)
八月 「近代のいけばなと女性—遊芸から婦徳涵養まで—」(草月、95)
九月 「行動主義とゲシュタルト理論メルロロポントイの背景」(現代思想、第二巻第八号)
一一月 『原典による心理学の歩み』(講談社)

昭和五〇年(一九七五年)

- 三月 「人間ぐるい太宰治」(ユリイカ、第七巻第三号)
四月 「臨床の場と社会の場—臨床社会心理学へのひとつのアプローチ—」(荻野恒一、相場均、南博編『現代人の病理第五巻、臨床社会心理学の基礎』、誠信書房)
五月 「西洋の自殺思想—古代から近世まで—」(大原健士郎編『自殺学4、自殺と文化』、至文堂)

昭和五一年(一九七六年)

- 一月 『心理学の名著12選』(学陽書房)
四月 『行動理論史』(岩波書店)
六月 「心靈スキャンダル、福来友吉の悲劇」(現代思想、第四巻第六号)
七月 「男色、ひとつの社会心理史」(季刊芸能東西、一九七六年七月、蟬時雨号)
一〇月 『くちコミニケーション』(社会心理研究所と共著、誠信書房)
一〇月 監訳『図説現代の心理学』全六巻(講談社、↓一九七七年五月)
昭和五二年(一九七七年)
三月 訳『現代社会学入門』全四巻(R・A・ニスベッド原著、講談社、↓五月)
一〇月 「自白の社会心理学」(世界、一九七七年一〇月、

第三八三号)

一二月 『マスコミと日本語』(岩波講座・日本語第二

巻、言語生活3) 岩波書店)

昭和五三年(一九七八年)

五月 『新版マス・コミュニケーション入門——現代

を支配するもの——』(光文社)

八月 Mass communication studies in Japan: The

present status and the specific problems,

XIXth International Congress of Applied

Psychology, 1978, Aug. 1, Lecture.